

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ヒトツナ西ノ京教室		
○保護者評価実施期間	令和8年1月22日		～ 令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16人	(回答者数) 14人
○従業者評価実施期間	令和8年1月15日		～ 令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士、理学療法士、児童指導員、看護師が在籍することで多方面から子どもたちを捉え、アセスメントし支援に活かすことができている。	日々の支援の振り返りを行い評価・支援の修正を行っている、行動だけに目を向けるのではなく背景に目を向けることが職員の中で習慣化されている、	職員それぞれが更に自己研鑽に励み支援に活かす、利用児それぞれにカンファレンスの場を定期的に設定する
2	日々の支援記録の詳細さやお困りごとにてのタイムリーな面談調整などを含め満足度(安心感、楽しんでいる、満足)について、各項目で高水準が保たれている。子どもたちが通所を楽しみにしてくれていることに加え保護者への支援の見える化やサポートが、満足度にもつながっている。	「子どもたちの安全基地になる」をモットーに職員は支援を開始している、本人を否定せず受け入れられる経験を積んでもらう、職員間での情報共有を場を設定している、日々のサービス内容のフィードバックを丁寧に書面にて行うことで支援の場に居られない保護者へ様子の共有を行っている、	保護者・利用児の興味関心をひくプログラム内容の更なる充実に向け職員で検討していく、保護者の困りごとなどにタイムリーに対応できるよう公式LINE等をより活用していく
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流やその他地域で他のこどもと活動する機会がない。	日々の業務が優先されている、	まずは利用児が通っている保育所、認定こども園、幼稚園等との連携強化を図っていく、
2	非常時等の対応について教室の取り組みが保護者には伝わりにくい	契約時に具体的なマニュアルや法定で行っている訓練研修などの説明を行っていない、	契約時にはマニュアル類の説明を追加する、訓練・研修の様子等はSNS等のツールを活用し情報発信していく
3			